

令和5年度（2023年度）交付

# 協働提案事業補助金 成果報告書

- 本報告書は各団体から提出された事業報告書や自己評価シートなどの資料をもとに作成しています。

# 令和5年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	瀬戸内市立図書館友の会 せとうち・もみわフレンズ
事業名	市内歴史関連の史跡を中心としたデジタルアーカイブの蓄積と情報活用
テーマ	デジタルアーカイブを核とした地域資源の情報発信
協働部署	瀬戸内市立図書館
補助金額	984,200円

## 団体概要（公募申請時点）

団体の目的	図書館の活動に協力・提言することにより、図書館活動を支援するとともに、交流と実践の場を提供する。		
活動・業務	図書館活動に関する支援（イベントの共催、庭園のグリーンキーパーなど）、図書館を会場にした行事の開催。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	85人

## 事業内容

瀬戸内市民図書館が所有し、管理・運営する「せとうちデジタルフォトマップ」の写真投稿や活用を推進し瀬戸内市の魅力を発信する事業。今年度も写真集を作成し、県内図書館や市民に配布し、アンケートも実施した。歴史・史跡に関する講演会、史跡見学、ワークショップや街歩きなどを行い利用拡大に取り組んだ。昨年度作成した「せとうち歴史クイズかるた」を利用し、かるた取り大会もおこなった。

## 事業の成果

- 今年度「せとうちデジタルフォトマップ」への写真投稿が326点となった。投稿者も31人となり昨年の約3倍になった。
- イベントや講演会を合計17回行い、延べ337人の参加があった。
- 写真集「わたしたちのふる里～桜～」を300部作成、また「わたしたちのふる里2023」も260部作成した。写真集で人気の高かった写真を使ったクリアファイルを11種類合計550枚、同じくポストカード16種類合計1600枚作成した。これらは図書館の行事に参加した人に配布予定である。

## 事業を振り返って良かったこと

- 写真集のアンケートでは「あらためて瀬戸内市の風景のすばらしさに気づいた。行ってみたい場所が多くあった」などの声をいただいた。
- 写真集を作るなどの写真の活用によってデジタルフォトマップを知ってもらう良い機会になった。
- 事業実施にあたり「記録する」「参加する」「活用する」のスローガンを掲げた結果、「せとうちデジタルフォトマップ」に多くの写真を記録することができ、写真投稿を促す行事に多くの人に参加した。さらに投稿された写真を活用することができた。

## 改善点や今後取り組みたいこと

- 瀬戸内市の歴史を記録していく上からも写真投稿をうながしていきたい。

# 令和5年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	POLISH ART AND SCIENCE MISSION IN JAPAN
事業名	ズグラフフィート・イン・瀬戸内市 オープン美術館 vol.2
テーマ	県立邑久高等学校の魅力向上による地方創生
協働部署	企画振興課
補助金額	1,000,000円

## 団体概要（公募申請時点）

団体の目的	展示会、講演会、コンサートなどのかたちで日本とポーランドで芸術的、科学的、教育的イベントを開催することにより、両国の文化を近づけること。		
活動・業務	ポーランドと日本の文化交流並びに両国の国交樹立100周年を祝ってのイベント開催。音楽・アートを通じての地域貢献活動。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	8人

## 事業内容

岡山県立邑久高等学校の生徒と、瀬戸内の伝統と美しさをモチーフにした「秋」と「冬」のコンセプト・デザインの壁画を、同高校の体育館の外壁にヨーロッパの伝統技法「ズグラフフィート」を用いて制作した事業。「ズグラフフィート」の歴史と技法をワークショップ等で学び実践し、邑久公民館と瀬戸内市図書館ではプロジェクトについての展示も行った。

## 事業の成果

- 今回で体育館の壁に描かれた「四季」のシリーズが完成した。
- プロジェクト期間中、若者たちとのワークショップが数多く開催され、材料や壁画の準備、フレスコ画、パネルへの小さなズグラフフィート作品、デザインやコンセプトワーク等が行われた。瀬戸内図書館と邑久公民館での記念展も開催され、高校生や瀬戸内市民とのミーティングも行った。
- プロジェクトに参加した生徒は、デザインの問題を学び、瀬戸内市の歴史に触れ、アート、デザイン、行政、ジャーナリスト、建設業、左官、石灰製造業、プロジェクトに関心を持つ地域住民などの専門家と交流する機会を持つことができた。

## 事業を振り返って良かったこと

- 芸術的価値の高い2つの壁画の完成が実現できた。
- 邑久高校の生徒たちが、自分たちの努力が自分たちの場所の形に影響を与えたことを自覚し、完成した壁画がこの先何年にもわたって学校のシンボルであり続けることを誇りに思うことができた。
- このプロジェクトは山陽新聞で記事が掲載されたり、ソーシャルメディアでも広く報道され、ポーランドのワルシャワでもその反響が注目され、新たなズグラフフィート作品のインスピレーションとなった。

## 改善点や今後取り組みたいこと

- プロジェクト終了後、地元の人々がズグラフフィートの技法に興味を持ち、もっと壁画を描いて欲しいと要望が出てきた。
- 地域の人が作品を見たくても高校の敷地内に立ち入れないので残念だという声があった。
- 将来的にズグラフフィートの壁面装飾を誰でもいつでも見ることが出来る場所で実施すれば、観光地としての魅力アップにつながるのではないか。

# 令和5年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	瀬戸内市民芸術祭実行委員会
事業名	市民の手元に届く芸術文化活動の情報発信で活動の活性化を
テーマ	市民の芸術文化活動の振興と新たな情報発信の構築
協働部署	中央公民館
補助金額	1,000,000円

## 団体概要（公募申請時点）

団体の目的	瀬戸内市における芸術文化の継承と発展に寄与するとともに、情操豊かな市民文化の振興、シビックプライド（郷土愛）の醸成に資することを目的とする「瀬戸内市民芸術祭」を円滑に運営、実施すること。		
活動・業務	文化芸術に関する企画や情報冊子の制作など。瀬戸内市の特徴ある歴史や伝統を生かした文化芸術活動を取り込んだ市民芸術祭の企画。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	9人

## 事業内容

第3回瀬戸内市民芸術祭の開催。市民の芸術活動の活性化のために市民の発信・発表の場を提供することを目的に、瀬戸内市の文化芸術振興に関する講演会や様々なアーティストを招いて開会式を行い、閉幕まで芸術公演など33イベントを実施した。

## 事業の成果

- 第3回瀬戸内市民芸術祭／開催期間令和5年9月10日(日)～12月24日(日)105日間 33イベント 総動員数15,105名
- 総合プログラムを掲載したパンフレットの発行も認知され4か月間の開催期間中、市内外の方の手元に届き、様々なイベントへの興味が湧き、再三会場に訪れる、新たな会場へも出向くという行動に現れたと捉えている。
- 公民館活動への参加者層は高齢化していたが、市民芸術開催を通じて若年層の参加がさらに増えた。

## 事業を振り返って良かったこと

- 瀬戸内市民 芸術祭実行委員会は、歴史ある「文化協会」と公民館主体の組織「文化があふれるまちづくり委員会」を結び付け、市全体の文化芸術の振興を、具体的に実現していく独立した存在として、発足した意義は大きいと思える。
- 市民は、期間中パンフレットを手に持ち、様々な芸術イベントに足を運ぶ中、R4,R5年と徐々に各参加事業(イベント)への来場者の増えていく状況を相互に会場で感じ、自分の街で芸術祭が開催されていることを大いに楽しみ、プライドを持ちつつある様子を確認した。市の芸術文化活動の活発化を体験している。

## 改善点や今後取り組みたいこと

- 子ども芸術文化活動への継承や創造性を育成できる事業を構築していく必要がある。芸術文化活動の参加できるようなワークショップなどの企画を増やしていき、次世代の子どもの成長にとっての必要性を提唱していくために、次年度は、人間の脳の発達と、芸術の関係など、深い研究をされている井出康人氏に講演を依頼している。
- 公民館を中心に入場の有料化、物品の販売等が可能なイベント開催が実現することは、今後さらに、市内外のプロの芸術家の参入が期待され、益々、文化芸術が進行していくと考えている。

# 令和5年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	一般社団法人ひばりエンタテインメント
事業名	長島ストーリープロジェクト2023 -長島の文化芸術を掘り起こす
テーマ	思いやりがあふれる人権尊重のまちづくり
協働部署	ダイバーシティ推進室
補助金額	1,000,000円

## 団体概要（公募申請時点）

団体の目的	アートや表現を通じて社会の雑多で多様な感覚を知るきっかけを長島から作る。		
活動・業務	喫茶さざなみハウスの運営、それを拠点に長島の歴史文化を紐解き、紡ぎ直し、幅広い層へ発信、繋いでいく活動。		
主な活動地域	瀬戸内市 長島	構成員数	9人

## 事業内容

昨年度より引き続き「愛生ヲ読ム会」の開催や「さざなみラジオ何か不足」、「とりくみ発表会」に加え、新たに「ハンセン病文学」学術調査の実施や長島ストーリープロジェクト 2023版「愛生」（仮称）の編集及び発刊などを行った。活動を通じてハンセン病療養所で生まれた文学を掘り起こし、その背景や外部の人間関係への影響など、フィールドワーク、ワークショップを市民とともに取り組み、映像や冊子を通じて情報発信にも繋げていく事業。

## 事業の成果

- 「ハンセン病文学」学術調査では東京大学研究員の和田夏美氏、スミカオリ氏がそれぞれ実施。和田氏の実績は最終的に研究とアートが交差することで調査内容が、ハンセン病についてリアルタイムで経験したことのない私たちに対してリアリティを生んだ。スミカオリ氏は、歴史を知ることだけでなく、自分事として生き方を誓う場所として長島があるということを訪者にしっかりと伝えてくれた。
- 「愛生」の編集及び発刊では、写真家の中川正子氏を中心にライターの大石始氏、文筆・音楽家の寺尾紗穂氏のアドバイスをいただきながら、自治会長中尾信二さんとのやり取りを冊子にした。SNS等での情報発信により、全国の30～60代、特に女性を中心としたハンセン病を知らない人たちへ向けた強い訴求力となった。

## 事業を振り返って良かったこと

- それぞれの分野で活躍しているアーティストや研究者と協働することで、より幅広い層へのアプローチが可能になった。市内からじわじわと広がる部分と市外へ飛び火的に広がる部分、また20～50代にかけて若い世代にも効果的に発信できた。

## 改善点や今後取り組みたいこと

- 発信も重要だが、何度も現地に足を運んでもらう経験数を増やしていくことも必要である。関心の度合いに応じた現地でのワークショップ等を継続的に取り組めるよう努力したい。また市営バスも有効に活用できる方法で考えたい。
- 参加者の方にも何度も足を運んでもらえるような情報提供を心掛け、興味関心を様々な角度から持ってもらうよう事業をゆっくりとブラッシュアップを続け継続展開していきたい。

# 令和5年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	一般社団法人 瀬戸内市観光協会
事業名	災害発生時の無人航空機による災害情報収集・救援物資輸送等の観光整備を考える
テーマ	災害に強いまちづくり
協働部署	危機管理課
補助金額	757,000円

## 団体概要（公募申請時点）

団体の目的	瀬戸内市の観光事業を推進するとともに、地域産業の発展及び地域住民の文化、教育、福祉、生活の安定・安全の向上に寄与すること。		
活動・業務	瀬戸内市観光センターきらり館、牛窓海遊文化館の指定管理業務、観光地の紹介・宣伝活動。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	11人

## 事業内容

災害発生時の無人航空機による災害情報収集・救援物資輸送等の環境整備を考える事業。「防災に対する関心が薄いと思われる若年層」向けに、防災に関するイベント等で、防災VR体験コーナーの設置、ドローンやフライトシミュレーター操縦体験教室を実施。市内空撮動画視聴とハザードマップによる危険想定地域の検証も行い、防災教育・啓発に取り組んだ。

## 事業の成果

- 瀬戸内市防災ネットワーク SETOUCHI.DRRで開設したSNS（インスタ）はフォロワーが100名を超え、他県の行政機関や大学で子供向けの防災イベントを企画するネットワークとの連携も生まれた。
- ハザードマップに連動した市内危険想定地域空撮映像制作では視覚的に危険性を示すことで防災の備えの必要性を伝えることができた。また、ドローンの実装事例として、リアルタイムの被災状況把握には空撮が不可欠であることも理解できた。
- 防災VRコンテンツ制作・防災イメージ動画制作では実際体験したことのない災害を3次元VRで疑似体験してもらうため地震・火災・洪水・津波のVR体験コンテンツを制作した。疑似体験とはいえかなりのリアリティがあり、体験後には「災害を自分事として捉えるきっかけとなった」といった感想が寄せられた。

## 事業を振り返って良かったこと

- 受け身の防災学習ではなく、自らが社会の役に立てる人となれるようなイメージを小中学生にふくらませてもらった。
- 子ども～若年層ターゲットで進行(計画)してきた事業も結果として保護者達が便利なテクノロジーに気付くきっかけとなり、防災減災との関わり、意識向上につながってきた。

## 改善点や今後取り組みたいこと

- もっとダイナミックな取り組みを進める時期に来ていると他県の取り組みと関わる中で痛感した。
- SNSによるSETOUCHI.DRRの情報拡散とネットワークの拡大。
- 市が行う防災イベントとの連携。
- 観光センターきらり館での防災体験パッケージの実施。
- 大型ドローン、空飛ぶクルマによる物資輸送・有人飛行実験。
- 立ち上げた瀬戸内防災ネットワーク、SETOUCHI.DRR を活用し各地で進められている防災の取り組み情報を展開したい。

# 令和5年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	学校法人せとうち 日本ITビジネスカレッジ
事業名	邑久高生による私たちの瀬戸内 市活性化プロジェクト
テーマ	県立邑久高等学校の魅力向上による地方 創生
協働部署	企画振興課
補助金額	972,600円

## 団体概要（公募申請時点）

団体の目的	IT人材を、外国人も含めて育成し労働市場へ供給することで日本経済の成長に貢献する。また、廃校活用による専門学校の立ち上げと運営、並びに地域活性化活動の中核として地方創世のモデルを構築する。		
活動・業務	ITを学ぶ専門学校の運営。農水省農山漁村活性化事業や同省農泊事業による地方創生貢献活動。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	79人

## 事業内容

岡山県立邑久高等学校の魅力向上を目的で、邑久校生が瀬戸内市を活性化する活動に主体的に参画できる授業「備前黒皮かぼちゃを使った商品開発・販売」「瀬戸内市観光PR動画と商品開発紹介動画の作成」を行った。邑久高校生の成長を実現するとともに、邑久高校と邑久高校生への注目度を高め、市内からの志願者増を実現する事業。

## 事業の成果

- 販売コースでは、備前黒皮かぼちゃを使用し、商品開発。地域の方のご協力のもと、商品販売していただくことができた。
- 観光コースでは、PR動画撮影時、撮影許可を頂く時に、「邑久高校の生徒さんなら」と快諾いただくことができ、邑久高校の認知度と共に瀬戸内市PR 動画制作により、瀬戸内市の魅力も伝えることができた。
- RSK中高生ニュースで活動の内容を放送していただくなど、新聞やメディアに取り上げられたことで、より瀬戸内市と邑久高校の魅力向上につながった。他の地域と比べ邑久高校の一般入試倍率も上がってきた。

## 事業を振り返って良かったこと

- 邑久高校生が活躍しているところを、テレビや新聞などで広報することができ、地域の方からも「邑久高校生、よくテレビにでているよなあ」という話を聞くことができた。このような生徒と活動をみて 自分の会社の製品をコラボしてほしいという企業さんも現れ、効果があったと思う。
- 生徒が地域の方たちと多く関わることで、「学校だけの人間関係ではなく、多様な人々と出会い今後の生き方やあり方を考えるきっかけになった」との感想も聞くことができた。

## 改善点や今後取り組みたいこと

- 瀬戸内市のことをもっと知ってもらうには、歴史や文化、産業のことを系統立てて伝える必要性を感じた。邑久高校生に期待している地域の方、企業さんがたくさんいるということ。その期待にこたえるためには、もっと高校生も地域や外に出ていくことが大切。地域がどれだけ生徒の活躍の場、活動の場を提供できるかも大切。
- 今回の活動をみた地域の企業さんから、うちの商品の開発に力を貸してほしいという申し出を頂いた。まずはそれに取り組むたい。

# 令和5年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	備前福岡案内ガイド協会
事業名	地域の観光人材の育成による地域活性化
テーマ	地域観光ボランティアガイドの育成による地域活性化
協働部署	文化観光課
補助金額	997,600円

## 団体概要（公募申請時点）

団体の目的	地域の観光人材の育成による地域活性化		
活動・業務	地域住民の視点に立ち、旅行者を受け入れ、地域の歴史的文化財を案内することによって、旅行者と交流し、地域を活性化させる。観光人材を持続的に育成する。		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	7人

## 事業内容

備前福岡長船案内ガイドの拡大、観光人材の養成、地域活性化を行う事業。「備前福岡長船案内ガイド養成講座開催を通じた備前福岡地区長船地区双方でのガイド養成と当協会会員の拡大」「備前福岡長船地区での地域住民を対象としたまち歩きの実施を通して、地域レベルでの理解の向上」「備前長船地域のまちあるきガイド方法の探求」「モニターツアーを通じた観光人材としての視点の獲得」を実施した。

## 事業の成果

- 案内ガイド協会会員数 現行7名が、新規に14名増えた。
- 地域住民対象のまち歩きに、福岡地区は7名、長船地区は6名参加していただいた。地域の歴史文化への認識が深まった。
- 案内ガイドの「しおり」と「ガイドツール」の作成では養成講座参加者が、実際にガイドとなって活躍してもらうために、ガイドのしおりと、福岡地区のみガイドツールを作成した。これにより、よりスムーズにガイドしていける体制ができた。
- モニターツアー時の懇談会の中では、観光客に寄り添ったガイドの大切さが多く語られ、参加者も大いに刺激をいただいた。本事業は、単に歴史を学ぶ会ではなく、「ガイド養成講座」という最初からハードルの高い講座としてスタートし、多くを学んできた。その結果、17名中15名が協会に参加されガイドとしてスタートを切ったことは、観光人材としての意識も一定以上獲得できたと考えられる。

## 事業を振り返って良かったこと

- 単なる歴史に興味のある人が、養成講座に参加する中で案内ガイドになる決心をしてくれた。
- 座学だけでなく、いろいろなところを見て回ることができた。

## 改善点や今後取り組みたいこと

- 参加者とのキャッチボールが大切だと感じた。
- 今回新しくガイドになられた方たちをしっかりとフォローしていきより幅を広げていく。

# 令和5年度 協働提案事業補助金事業成果

団体名	ushimado.labo
事業名	しおまち唐琴通りの歴史的建造物の 住み継ぎケーススタディ
テーマ	空き家等を活用した定住推進や魅力あるま ちなみの形成
協働部署	企画振興課
補助金額	994,100円

## 団体概要（公募申請時点）

団体の目的	牛窓を生活の場とする人たちが、安全で、安心して生活し、豊かな人間関係を通して、自己実現できる「まち」にする と共に、さらに多くの人々が訪れ、生活の場としたくなる「ま ちづくり」に資すること。		
活動・業務	牛窓の住まいと暮らし、歴史・文化の調査・研究 研究会、勉強会、見学会、展示等のイベントの開催 地区住民、地区来訪者への情報提供など		
主な活動地域	瀬戸内市	構成員数	5人

## 事業内容

「住み継ぎ」の実態把握と課題整理を行う事業。住み継ぎインタ  
ビュー調査の継続や、空き家改修のワークショップの実施、土  
地利用調査、他事例の調査・整理調査を経て、報告会・意見交  
換会を開催し2年間の調査結果を整理した報告書冊子の作成  
を行った。

## 事業の成果

- 行政や住民組織(自治会)の垣根を超えて空き家等の情報にアク  
セスし、実態を把握することができた。
- 牛窓で地域に関わりながら活動するプレイヤーへのインタビュー  
を通じて、住み継ぎにむけた牛窓の魅力と価値を掘り起こし、  
地域内外に発信することができた。
- 空き家の事例分析、空き家の所有者や活用者へのヒアリング等  
を通じて住み継ぎの具体的な課題を整理し、必要な支援施策を  
提案することができた。

## 事業を振り返って良かったこと

- 専門家や学生が集い、ヒアリングや実測、悉皆調査やワークショップ  
など、多様なアプローチで歴史的建造物や空き家、居住者の調査を  
行い、まとめることができたことは、瀬戸内市との協働提案事業  
だからこそ住民の安心感を得られたことや資金源を得られたこと  
が大きかったと思う。

## 改善点や今後取り組みたいこと

- 調査の先にある実働部隊としての役割を担ううえで、公平性  
や信頼性に課題があると感じた。（個人的な営利のためと見  
られてしまう場合もあった）
- 専任で関わり動かしていける人材とそれを支えるための収  
益・予算を算出することが、継続していくうえで難しい。
- 建物所有者にアプローチする上での情報や信頼性に今回の組  
織体制では限界がある。
- 街並みの調査や空き家実態調査よりまとめたデータの整理や  
それを使っての空き家の掘り起こしを 引き続き行うとともに、  
空き家の対策や居住支援を行う組織のあり方等の検討をして  
いきたい。